

価値創造の軌跡

100年企業グループとして、 チーム日軽金は異次元の素材メーカーへ、 サステナブルに成長し続けます

売上高
(億円)
7,000

1939年
日本軽金属(株)設立
アルミニウム製錬スタート



1950年代
アルミ製日用品が急速に普及



1960年代
アルミサッシ、トラック架装



1970年代
業務用冷蔵庫パネル、公共景観製品



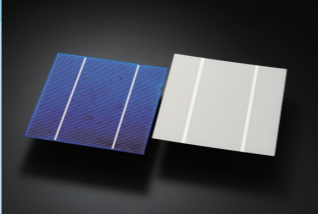
1980年代
電極箔、自動車用ホイール・熱交換器、メモリーディスク基板



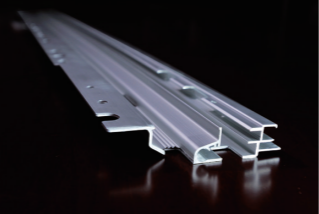
1990年代
二次合金事業 (リサイクル) 自動車部品



2000年代
箔、パウダー・ペースト事業



~2020年代
海外展開 (中国、東南アジア、インド、北米)



そして現在、23中計では新生チーム日軽金へと生まれ変わるべくさまざまな取組みを行っていますが、その中の一つが当社グループの事業・機能組織のグルーピングです。当社グループが重ねてきた歴史の中で生まれたさまざまな事業を、市場分野・プロセスが近接するもの同士で括ることで、各事業の中長期的な収益力の創出、価値の最大化を図ります。これに先行して昨年設立した日軽金ALMO(株)は、当社グループの自動車部品分野における具体例であり、モビリティ関連の商品・サービスを通じて、豊かな社会の実現を目指します。

6,000


5,000

4,000




事業の歴史と意義

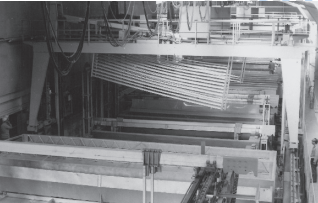
1939年 (昭和14年)
東京電燈(株)と古河電気工業(株)を中心とする出資によりアルミニウム製錬を目的に日本軽金属(株)設立
大規模水力発電を持つアルミニウム製錬メーカーの誕生は、産業、生活にその用途を拡げつつあるアルミニウムの安定供給に大きく貢献しました。




1952年 (昭和27年)
カナダのアルミニウム・リミテッドと資本・技術提携合意
世界的なアルミメジャーとの提携によりもたらされた世界最先端技術が後の新商品・新技術の基盤となり、高度経済成長期の急激な需要増に応えました。




1974年 (昭和49年)
日軽アルミ(株)を合併、日軽圧延(株)からの営業譲渡により、アルミ製品の総合一貫生産体制を確立
オイルショックによる電気代の高騰により、アルミ製錬からアルミ加工を中心に事業転換が急速に進むことになりました。



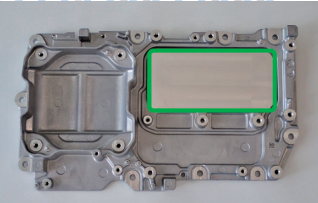
1980年代
国内アルミニウム製錬事業からの事実上の撤退、加工事業への転換が加速
オイルショックの余波は続き、新潟、苫小牧での製錬事業からは完全撤退、蒲原製造所の製錬事業も大幅に縮小し、製錬事業からは事実上、撤退することになりました。



2003年 (平成15年)
東南アジア・中国事業の再編により、海外事業の本格展開がスタート
アルカン社との資本関係解消、東南アジア・中国事業の再編により、当社グループが主体的に海外事業を展開する体制が整えられました。



2012年 (平成24年)~
持株会社体制
事業拡大期で勃興・成長した事業群を経営として統合し、横串によって連携強化したことにより、より高度でこまやかなユーザー対応が可能となる「チーム日軽金」が誕生しました。



3,000

2,000

1,000

0 (年)



■ 日本軽金属(株) ■ 日軽金グループ
※ 1948年以前については正確なデータがないため記載していません。